平成 30 年３月１日　発行

農業ふれあい公園だより　No.25

2018
（平成30年）
MARCH

【岩手県立農業ふれあい公園　農業科学博物館】　岩手県北上市飯豊 3-110　TEL 0197-68-3975

5月　ユキヤナギ

農業ふれあい公園は、桜の丘や芝生の広場、ひょうたん池、棚田などが園内にあり、子ども達の遠足や家族のレクリェーションの場としてご利用いただけます。公園の広さは約 17 ㌶(東京ドームの約 3.6 倍)ととても広く、３万本を超える様々な樹木が植えられていて、春にはコブシ、オオヤマザクラ、ハクモクレンが、夏にはナツツバキ、アベリア、秋にはジュウガツザクラやマユミなどが咲き、春から秋まで楽しむことができます。また、樹木に囲まれた散策路として、約１.７㎞の公園コースと約 4.6 ㎞の農業研究センター外周コースがあり、多くの方々にご利用いただいています。

5月　シダレザクラ

８月　アベリア

10 月　紅葉

公園内には岩手の農業を知ることができる農業科学博物館が設置されています。館内には「農業れきし館」と「農業かがく館」の二つの展示室があり、農業れきし館では、かつての農家の暮らしと農作業用具の展示、県内各地の農業と食文化、農業の歴史や地域農業の発展に尽力した方々を紹介しています。農業かがく館には、田んぼの中の世界や巨大な冷蔵庫内で野菜・果物の原産地を学ぶコーナー、畜産について理解を深めるコーナーなどがあります。毎年多くの小学生や園児が校外学習や遠足などで訪れており、最近はデイサービスの皆さんの外出時の立ち寄り先としてもご利用をいただいています。

農業れきし館

企画展

農業かがく館（田んぼの中の世界）

農業れきし館

ふれあい広場

平成29年度企画展レポート

第 72 回　昭和中期の畜力農機具　　平成２９年４月８日（土）～　６月 30 日（金）
～水田耕起と代掻き作業～

昭和中頃までの農作業は、牛馬を田畑の耕起や水田の代掻(しろか)き、運搬作業などに使い、また、堆厩肥(たいきゅうひ)を生産し、それを施(ほどこ)して地力を維持してきました。生産された子牛や子馬は財産となり、販売することで収入を得ることもでき、農家生活にとって牛馬は欠かすことのできないものとして、家族同様大切に扱われてきました。

岩手県では、昭和 30 年から 31 年にかけて稲作業実態調査を行っています。昭和３０年当時はエンジン動力付き農機具の普及率は 3%程度でしたが、その後、エンジン動力付き農機具が急速に普及し、昭和 35 年頃には牛馬を使った農作業風景は見られなくなってきました。

企画展では、牛馬を使った当時の作業方法と稲づくりの様子や農機具、飼養用具、装具(そうぐ)(馬具)等を紹介しました。

代掻(しろか)き

枕地(まくらち)の耕起(こうき)

第 73 回　『稲わら』ってすごい　　平成２９年７月６日（木）～　９月 30 日（土）
～暮らしを豊かにしてくれた稲わら製品～

『稲わら』は、ごく自然に私たちの身近にあり、誰もがさまざまに加工を加えることができる素材として、つい５０年ほど前までは衣食住、冠婚葬祭(かんこんそうさい)、労働、運搬、遊びなど、生活のあらゆる場面で使用され日本人の生活を豊かにしてくれました。「稲わらを燃やしたら罰(ばち)があたる」とも言われ、無駄にすることなく大切に扱ってきたものです。しかし、昭和中頃からは生活の多様化とナイロン、ビニールなどの化学製品の登場により、次第に稲わら製品は使われなくなってきました。今、稲わら製品は、伝統行事や民芸品でしか見ることができなくなっています。

日本の生活文化を支え、また、生活を豊かにしてくれた稲わらが、その役割を終えてしまったことは大変残念なことです。このような時代だからこそ、日本人の生活を豊かにしてくれた『稲わら』についてもう一度考える機会として各種稲わら製品と工作道具を紹介しました。

雨具

わら人形

筵織機(むしろおりき)

わら沓(くつ)

第74回　岩手の風土食事情　　平成29年10月7日（土）～12月26日（火）

～むかしの食生活～

岩手県は、広大な県土のなかで、地域によって地形や気象等の条件が大きく異なり、そこに住む人々は、その土地に適した米、麦、雑穀など様々な穀物を生産し、食料にしてきました。

昭和中頃までの農家の食生活は、これらの穀物と、地域で手に入る食材を組み合わせ、栄養の調和を図るとともに、伝承されてきた加工法や貯蔵法などにより自給主体の食生活を組み立ててきました。

冷涼な県北部では、稗、豆類、小麦を平常食とし、村や家の行事の際には晴れ食としてそば料理が供され、比較的温暖な県中南部では米、麦を平常食とし、晴れ食としてもち料理が供されるなど、地域の特徴を生かした食文化が形成されていました。

企画展では、穀類の脱穀、精白、製粉などに用いた調整道具と、地域ごとの特徴的な食べ物や食べ方を紹介しました。

穀打ち台

石臼

まどり

第75回　農家の暮らしと火　　平成30年1月11日（木）～3月29日（木）

～炊事の火・暖房の火・照明の火～

昔は、暮らしの中に常に火が燃えていました。台所の竈や囲炉裏、座敷の火鉢、風呂、ランプや神棚、仏壇の灯明など、家の中のあちこちで火を見ることが出きたのです。

囲炉裏の火は「炊事の火」、「暖房の火」、「照明の火」などを兼ねており、囲炉裏端は一家の食事の場、休息・団欒の場、夜なべ仕事の場でもありました。また、時には来客対応の場ともなるなど、囲炉裏を中心に据えた暮らしをしてきました。

この囲炉裏の火が、生活様式の変化とともに炊事用、暖房用、照明用などに、それぞれの機能が分離し、より便利なものに進化・発展してきました。

企画展では、江戸時代から昭和３０年頃まで使われていた炊事、暖房、照明道具を紹介しました。

囲炉裏

箱火鉢

置行灯

・・・農業科学博物館・ふれあい公園トピックス・・・

親子体験学習会「そばを作って食べてみよう」　平成 29 年７月 30 日～11 月５日 ４回講座

種まき作業

刈取作業

そば打ち！

農の生け花展　平成 29 年9月９日

季節の農作物や山野草を農具などに生けた「農の生け花展」を開催

一日子ども研究員　平成 29 年８月４日

ふれあい公園にいる昆虫たちを調査

レトロ発動機実演　平成 29 年9月９日

整備された発動機を展示・運転

冬休み親子体験学習会「松飾りをつくろう」平成 29 年 12 月 17 日

松飾りの出来栄えにみんな満足

お知らせ

◆◇◆ 博物館ご利用案内 ◆◇◆

【開館時間】　9：00 ～ 16：30（入館は 16 時まで）
【休館日】　毎週月曜日（ただし祝日の場合は翌日）
年末年始（12 月 29 日～1 月３日）
【入館料】　高校生まで無料
個人　学生 140 円 / 一般 300 円
団体（20 名以上）学生 70 円 / 一般 140 円

障害者手帳などの交付を受けている方及び介護サービス事業などで入館される場合は、入館料が無料になります。

第 76 回企画展「昔の肥やしと肥培管理」

開催期間　平成 30 年 4 月 8 日（日）～6 月 28 日（木）